



特別  
~ 5  
6188  
2



時  
75  
6188  
2



五言抄卷中

や

社

子みやけにおと付りまじりていとふ  
儀いづれかふまゝとていふ

八幡

名はや名  
非子あり

山科乃文

山科乃  
あり

山乃

行を抄と雖峯嶽言根  
尾上ホと山乃を子五白さる

屋戸

懐の電乃るや  
そい赤物なり

山

やいふ字通乃字をせ乃りなり文字ハ  
韻い甲一面小くけりて地唯之

山

あゝい但可依白け理はこ入物り



山

山こ 山下の山を二句煙山陰も下草  
などあり、他陰り下物より不煙  
と云ふより天の下をいこふよの類は不煙之  
かりしをのほしをいこふよの類は不煙之

山

山こ 山より夕景乃  
字也、志れも二句さくらあり

山

山こ 山より夕景乃  
字也、志れも二句さくらあり

山

山こ 山より夕景乃  
字也、志れも二句さくらあり

山

山こ 山より夕景乃  
字也、志れも二句さくらあり

山城乃こいぬ

山城乃こいぬ 山城乃こいぬ  
二句煙ありいとくさる

又鳥飛あつる

又鳥飛あつる 又鳥飛あつる

やゆ乃

やゆ乃 山より夕景乃  
字也、志れも二句さくらあり

て行乃志ゆ

て行乃志ゆ 山より夕景乃  
字也、志れも二句さくらあり

山乃色

山乃色 山乃色と小煙を二句煙や他白  
より煙一とつ雷霜の色をせ、山  
乃色と小煙を二句煙や他白より煙一とつ雷霜の色をせ、山

山の色

山の色 山の色と小煙を二句煙や他白  
より煙一とつ雷霜の色をせ、山  
乃色と小煙を二句煙や他白より煙一とつ雷霜の色をせ、山

好女子何とこはくらひゆり同じわたりり  
さあけきりやさきなり西を煙へよかんなり

山

山こ 山より夕景乃  
字也、志れも二句さくらあり

山

山こ 山より夕景乃  
字也、志れも二句さくらあり

山

山こ 山より夕景乃  
字也、志れも二句さくらあり

山

山こ 山より夕景乃  
字也、志れも二句さくらあり

山こ 山より夕景乃  
字也、志れも二句さくらあり

や海母赤

山の字不種付の也

小方橋

屋ノ橋をよの小方百韻子一也しくへか  
と云く重た字計れ居ハ西河橋也

柳

只一喜柳一様をれ居り一是形式乃柳也  
柳らり形也喜柳をけるもしくハ勿偏喜也

藪

たけのこいしくされは子種わり二句種なり  
如け之物ハいつれ一様子一なり

宿

只一様子一屋をりけ外よりあり馬乃宿り  
宿乃やとりをの居り又も種一

屋とり

宿抄を種馬寄ホ之  
やとりはうらよあへん

屋

りあまやなるの形抄を種一  
屋乃字四りりもつさ欵

芦乃丸也

まのの屋もよもや  
おりてと種なり

矢

よと力や  
抄を種なり

周

りく記の也

法生

り月次乃月二句種なり

屋よひ

といあよるつ道一を必何け均の  
ト比奥なり地准く

やよい山

名はよあす

うのかひのや

二句きらあなりうい  
乃やまてハ小よて也

とあす地句種なりりりよりる

や又字

おり合と  
種なり

海

松

子日二句燭也但依白神新式よりハ  
二句燭とありきわも付わうして新  
かきさわり老葉よ去とも見しぬ松のこれと  
りふ白子日せー神人なる記在つと宗祇  
付らわたりるうのりハ小せきもひてハ此  
たるのありをねも記さりの千里のかりあ  
もさひめくうんとおりのそー不給二句燭と  
きりや

松門

松門よあす寸松少くしてつらり門  
多るー一松り記るも同か

松風

二や松りそをひていひ作  
一や松風松風山坊浦をそと  
あ委松風乃西よ志りき音風のやうなる耳  
すいめのいそー一なり地唯之

松風乃雨

木の葉のぬけ若乃ぬけ  
もぬけよ可燭是新式に

りり混合きりわぬ小燭ハ松風乃雨  
雨子似たりと心もあり又松風とたより人  
のぬけ乃心もそー一松を混合きりわたり  
花乃波おそりーはもほも二句五句さる  
美列もくー分列あや

松風乃雨

冬乃雪とらゆふありわ  
二句燭一ー又式松乃松  
を乃ぬけもたさるハありわり  
乃打撃よいうと心松も二句み句の燭うそ  
席の好古りーより句りーより句り

松乃煙

同竹草水おぬ煙は煙母也打煙を  
煙るー一緑倉白煙色の心也志り  
とも分りよハ必書し七句去也ハあ少くは

松乃聲

日松乃ゆきさるもさる  
風体二句さるもさる  
松乃葉と焼  
なとり河柱也小ハるりきり記とより

楨 トシ 一ノ木乃字付くも新しき寸一向ふ

才乃戸 トシ 才乃字め句楨まゝのやも同家

秣 セク 生取よ二句楨柱のあも字乃字も二句や

花 ハナ 七句ちやるうの字ハ昔くまらうりまら

月 ツキ 今 イマ 此 ココ の ノ 後 ノチ 也 ヤ 東 トウ 國 クニ の ノ 名 ナ あり

鞠 マド 場 バ 庭 ニ の ノ 心 ココロ ありて一乃外 ソノト いろとハありた

鞠 マド の ノ 場 バ とハ庭 ニ の ノ 外 ソノト ありて一乃外 ソノト いろとハありた

場 バ 乃 ノ 字 ジ を シ かり カ 可 カ 鈴 スズ 近 チカ 代 ト 只 タ 庭 ニ 乃 ノ 分 バ 二 ニ 用 ヨウ 也 ヤ

窓 マド 一ノ戸 ト 西 ニ を シ 楨 トシ 門 カド 小 コ 戸 ト 言 イハ 小 コ 門 カド 何 ナニ 同 ドウ 家 カ あり

籬 セキ 只 タ 一 ヒト 霧 キリ 乃 ノ 言 イハ 記 キ 又 マタ ありし シ 一 ヒト あり アリ 抄 セウ

眉 メイ 乃 ノ 霜 シユ 階 カハ 乃 ノ 一 ヒト ありと冬 フユ 小 コ ありし シ 一 ヒト あり

飯 イハ 乃 ノ 糞 クソ 一 ヒト 乃 ノ 字 ジ 而 シテ 楨 トシ 也 ヤ 一 ヒト あり

約 ヤク 恋 コイ 約 ヤク と シ 一 ヒト 字 ジ 入 イ 乃 ノ 字 ジ 二 ニ あり アリ 一 ヒト あり

一 ヒト あり アリ 一 ヒト あり アリ 一 ヒト あり アリ 一 ヒト あり アリ 一 ヒト あり アリ

夕 セウ 乃 ノ 被 ヒ 月 ツキ の ノ 字 ジ や ヤ 乃 ノ 字 ジ 也 ヤ 一 ヒト あり

夕 セウ 乃 ノ 被 ヒ 月 ツキ の ノ 字 ジ や ヤ 乃 ノ 字 ジ 也 ヤ 一 ヒト あり

海と 事付くも新しき

あ 韻入り三まり折を煙只の二句を  
他准く

け

今日 百款入り二より

字 今不煙昨日の百六二句可煙けさ  
りしとも不煙款

字 乃こもい 七句も兼ふありし今と云  
て何れも兼ふ納入ては此兼ふ

字 あり 七句去たる人

煙 打越入りばまの 七句も兼ふありし今と云  
て何れも兼ふ納入ては此兼ふ

あしは煙といふのみは煙入り煙也 志の 煙く  
あしは煙といふのみは煙入り煙也

字 久乃あり 長傷あり水草のけ夕  
けるよの煙雲の煙を長傷

松竹未乃 たるの煙も蚊を火するの類も  
あしは煙といふのみは煙入り煙也

字 乃の鴉 夏あり城川 位百首く 鴉子  
反部入り入物り

けたもれ け新入り二句ありし今と云  
て何れも兼ふ納入ては此兼ふ

字 乃の け新入り二句ありし今と云  
て何れも兼ふ納入ては此兼ふ

字 乃の け新入り二句ありし今と云  
て何れも兼ふ納入ては此兼ふ

字 乃の け新入り二句ありし今と云  
て何れも兼ふ納入ては此兼ふ

今  
二句煙言り  
らん不煙言けさ今記をの詞よ  
煙よりいらんは煙々いりたり

ろりけ  
志の今一を打と煙やあしと  
けささと此言二句煙へいり

下知之詞乃  
あひさ二句さうりきけ  
勢のあひさ乃さり

ふ

古寺乃折庭  
なとさくも居あよなる  
へすさうりも折さ  
居不さすいすいりといりる  
あひさあひさのも圓折なりけ折さ

皇居乃古御  
又居はうりあしと可煙  
里とよ字小ハふ句煙也

古種難岐みり記さる志賀さるれ右のた  
いりけ外は乃旧部不可勝計

古  
よ部煙やうり古の部も古のた  
男あまの同を煙と云院あり志

古  
あしとあしとあまの同を煙と云院あり志  
あしとあしとあまの同を煙と云院あり志

古  
名はと古古のるり一様よ一分二也  
様乃古のきて名前と古古と二也あり

古  
よ寺ありてあまの古の字ありを煙也け  
はよは之

古  
よ家路依句折と折あしとあしとあまの同を煙と云院あり志

古  
よの折折と煙なりあつさり

古  
よの折折と煙なりあつさり



舟の起しと後少るさし

枕 舟に傷乃心あり

舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし

舟

舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし

舟

舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし

舟

舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし

舟

舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし

舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし

舟

舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし

舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし

舟

舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし

舟

舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし

舟

舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし

舟

舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし

舟

舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし

舟

舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし

舟

舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし

舟の起しと後少るさし 舟の起しと後少るさし

あり又故ハ草ナリ

牡丹

牡丹カキミコ 点一ナリそハ蘇ハ葦乃異名ナリ

蓮生

蓮生ハスナ ありてふまの生れ字ナリ

冬之積

冬之積トツリ ありてふまの生れ字ナリ

冬之松乃野山ホ

冬之松乃野山ホトツリ

冬之松の芦火芦屋

冬之松の芦火芦屋トツリ

冬之松の芦火芦屋トツリ ありてふまの生れ字ナリ

記ナリ葉トシテナリトナリナリナリナリナリナリナリ

ぬり

ぬりトツリ ありてふまの生れ字ナリ

少子

少子トツリ ありてふまの生れ字ナリ

鳥乃

鳥乃トツリ ありてふまの生れ字ナリ

少子

少子トツリ ありてふまの生れ字ナリ

少子

少子トツリ ありてふまの生れ字ナリ

笛と少

笛と少トツリ ありてふまの生れ字ナリ

取分るナリ

月乃女之所

ありて又來乃女之所ありし

東乃更

東乃更と此の時分更といふは東  
の東乃更なり鶏はえんあつたよ

更

付くといふはより  
とりつかりの東あり更といふは東  
あつたよあつたよ二句より東乃字と云ふは  
とみといふは二句あり

文

文一たり  
文一たりは一文字一文章三句は  
新武乃初也文と文章といひて  
そ一なり

文

り字不付いづの乃文ふへも極也  
よりとり付つといひてり  
ハ又け外りあり一又今ハ乃時  
皆なるの類又あるを一はけ  
然も又あるありつなり

筆

筆一なり

女乃

女乃人倫ありありいといひてり人倫あり又  
おくは具りいといひ

道極

乃字の心つ極句よりあり極

心

心月

解教なり月極なり月小ハ七句  
又ありて月とありありあり

心乃

心乃友

人倫ありありありありあり

心乃

極あり二句極ありありありあり

心乃

ありありありありありありあり



木玉

木之字玉乃字なりぬ勺可燻歟

木まきと乃燻

燻あり二勺燻なり

梢

梢こし一也と松ともいふて一こまき乃枝

梢

枝付くも一也

木枯

木乃字枯とよ字とよ折と

木枯

木乃字枯とよ字とよ折と

木枯

木一や木枯種か木乃風体乃る何といひ替

九重

子部同一折と燻ありこれなぬ也

け殿

居ありうたひゆも

若衣たきけ乃枝

乃枝燻ありあつらひ

二け乃戸

若糸の庵木人ゆあり居下や

若筵

若物より敷かたりあつとまつく

物す簾

り小乃字不燻小乃字とかくま

越乃

子名木二勺燻なり

越乃

子名木三勺なり

憲乃山

依乃体名はきりし大乃



詞 一とれと一とのふれたの外の外より

ととん 小葉の字にふと不嫌とのふるとん

詞 小葉の字にふと付とあり人子系にて

ととり 詞の字にふと付とあり大略嫌

あや乃葉草 葉の式よりみる嫌へ

とと葉 小の二句嫌てあと云詞と二句嫌

詞乃林 此種和の詞木非と云の詞と云の

おとり 詞の字にふと付とあり

あや乃葉 小の二句嫌てあと云詞と二句嫌

あや乃葉 小の二句嫌てあと云詞と二句嫌

ととり 小の二句嫌てあと云詞と二句嫌

あや乃葉 小の二句嫌てあと云詞と二句嫌

子 小の二句嫌てあと云詞と二句嫌

小鳥 小の二句嫌てあと云詞と二句嫌

ととり 小の二句嫌てあと云詞と二句嫌

後よりんとなり梅よりぬ葉よりハ馳乃字をれを  
抄と煙とより煙ろくよりなりなりとより而と煙十  
行と煙とより小煙とれ抄なり

馬乃群 一り馬乃声なり同而と煙や  
馬とりりかりの入り

郊い赤 子高羽山とねと不煙凡の音  
羽山とといく不煙表とより入

胡蝶 小乃字不煙く付句少と云けりす

あかこ とよよけ乃字是の字乃類と  
り二句煙なり

ふりふり 千句はと二つりとりり

い

い 只一名なり一とをりしみるいなきの  
類なり

えい ほとりし洞百韻りたり一や  
地准

て

寺 寺一名はり又一あり一

ち乃庭 ほとりしやと居ふよるは抄に  
打あし居ふを用括あり寺と云

寺乃打越 子讀とくはるう乃多制動り  
の通なり

あは字 抄り一  
あは字 一  
神ハあり

不煙なり



小舟

舟より小類而とゆへ

てよとてしるお合とふの付く

乃てりしりしりしりのすまりお合の字付の付く

お合乃て

いゆへとてるといふゆへ

ふ

と云種より二句ゆやてふ百類より二句ゆ

下の句にてとあり

千句ゆて只一なり小と

一いりといゆへ

同下の句のてとあり

なるといふゆゆ初

あ

天般楞船

此の遺志舟同もや日本純子

そ何乃あふ

なると又舟とゆへも此の遺志

乃心をけしといふよりなり名亦なりあ遺也銀河

天行

舟とゆへてとあり小はあり

て若字

四よりなりしと字より二句ゆ

閑伽結

舟の字より体用れ外とりし

あつ被る

なり付てゆへり二句ゆ

あ月小舟

山とゆへていひていふ

あふこれ海 なすもりりゆて國乃海なすもり

粟津の原 あつじの原

の石 りきんせき

嵐山 のまきとまあ〜の山ま〜いん風体

お坂 山形や山まを國ハ勿備山形や浦まを國ハ

淡路 子道二句燭まり山形まをてて二句

東路 り東屋向折と燭け外りハ東越が

あふ りあふ二句燭又あふりまな打

有明

四季より各一と新或よをけ分りてハ  
まこしと不詮秋よ一三季乃各よ一はと

その 燭まりあふけりす

あり 子けさあ〜た不燭あけ乃おじり

在明 り月次乃月とりあ字あ句燭下

晨明乃 り入と〜ハあふりあり

の あふりあり

二句 あふりあり

あくね 子納乃字又さしじると三納二白燭也  
あぢりめと同也

明言 とつてさきより納付を何と不燭之夕の  
字ハ二白燭也明言乃二字ハ同也去

まり納夕り言乃字同也じつりさほやくく  
分別まじり

あくね うりりき二白燭也

衆乃あくね 子産とあくね付白りり燭也  
あけかの子とあくねも同也

あくね 子曙衆なるまじり二白燭也  
あけかの子とあくねも同也

まり

明闇 衆乃時分まり 燭衆乃時分まりとすり  
きあしきり時分まりのまじり

字り二白燭也

きり

曙 只一是も衆乃時分也納夕とも二白燭也  
り納も二白燭也

噴 只一を噴一具あつて二時分なり  
二白燭也

朝乃月 衆乃時分なり  
あつた乃月体なり

朝の字 衆乃時分なり  
あつた乃月体なり

朝附日 衆乃時分なり  
あつた乃月体なり

朝の字 衆乃時分なり  
あつた乃月体なり

朝の字 衆乃時分なり  
あつた乃月体なり

衆 子納乃字新也  
と心不謂と云る也

あふいしが あふいしのあふいしよりあふいしは 是  
き いぬとよ字よりあふいしより二白燻しより

き 二白燻也  
き 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是  
き 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是  
き 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是

河 あふいしは 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは

葦 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是  
葦 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是

葦 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是  
葦 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是

葦 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是  
葦 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是

葦 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是  
葦 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是

葦 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是  
葦 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是

葦 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是  
葦 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是

葦 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是  
葦 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是

葦 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是  
葦 鴨水ききよりあふいしよりあふいしは 是

ろりりハハ極極

煙乃葉

煙乃葉 煙乃葉の字なりまのそとにひくふ

秋のさしき

秋のさしき 秋のさしきとにひくふ

秋のさしき

煙乃涼

煙乃涼 煙乃涼の字なりまのそとにひくふ

煙乃葉

煙乃葉 とはひくふの心なりまのそとにひくふ

煙乃字

煙乃字 煙乃字の字なりまのそとにひくふ

鳥の跡

鳥の跡 鳥の跡の字なりまのそとにひくふ

鳥の跡 鳥の跡の字なりまのそとにひくふ

雨

雨 雨の字なりまのそとにひくふ

雨乃雨

雨乃雨 雨乃雨の字なりまのそとにひくふ

雨乃雨

雨乃雨 雨乃雨の字なりまのそとにひくふ

雨乃雨

雨乃雨 雨乃雨の字なりまのそとにひくふ

雨乃雨

雨乃雨 雨乃雨の字なりまのそとにひくふ

雨乃雨

雨乃雨 雨乃雨の字なりまのそとにひくふ

雨乃雨

雨乃雨 雨乃雨の字なりまのそとにひくふ

雨乃雨

雨乃雨 雨乃雨の字なりまのそとにひくふ

鼠

連代ニありけ外ニ鼠山あり同字ハ燭  
乃准ヤ何向キヨリマシクハ燭也  
一ハ山ニシテ風神ノ心ヲ用テハ鼠ノ  
燭中ニハ鈴作約山ト馬面ト燭ヲ  
山トシテモ鼠ト面ト可燭リ

あろろ乃庫

居込リニ句燭ナシ

網代

あこ小ハ折ト燭ヤ志ろハ二句燭  
トモ面ト燭ナシ奥トリあこハ別  
燭トナリナシこれあこハ佛經ト七章羅網  
乃有るあこハ網ノことトナリハ二句去キ  
あこハ編心月トくハ句燭ナシ

海古乃寺くるま

焼リハあこハ繩ト  
トナリハ海ナリ人

乃あまふゆーい合ナリ

温

長閑ニ句燭ヤあろリヨリ日トナリハ  
也去リ不謂クハ温トナリ

あつさ

子涼トナリ燭ナリあつさトナリ  
その有るハニ句燭ナリ

扇と玉

秋ナリ也依句神トナリ  
ハ秋ナリ

あぢ

ハ字トハ字ニ句燭ナリ人倫ナリ  
ハ人倫トナリ

あ〜り

ハ字不燭ト新式トナリ  
燭ナリ不燭トナリハ背拍乃今案

消息

あり是ハ得ヤトナリハ外乃  
ハ今案トナリハ用クハ也  
あり少トナリハ二句燭ナリ

吹あ〜寸離乃風

ハ字トナリハ又風ノ  
海トナリ

あゝ玉の春 花は意乃字は二句揃七  
あゝ玉の改乃字の心なり

あゝ玉乃春 と云ふなりしと云ふなり  
あゝ玉乃月なと云ふなり

あゝ玉乃春 あゝ玉乃月なと云ふなり  
あゝ玉乃春と云ふなり

あゝ玉乃春 あゝ玉乃月なと云ふなり  
あゝ玉乃春と云ふなり

あゝ玉乃春 あゝ玉乃月なと云ふなり  
あゝ玉乃春と云ふなり

あゝ玉乃春 あゝ玉乃月なと云ふなり  
あゝ玉乃春と云ふなり

あゝ玉乃春 あゝ玉乃月なと云ふなり  
あゝ玉乃春と云ふなり

里祢系 此居所禁中一のなりけくふみか里  
うきうきと云ふなり

梅乃宮風のみや もと此名亦他准く何と  
梅乃宮乃未詳なり

依保非 此非祗を田非のあゝひめなり  
乃非何といひ一なり

ふかいめ乃衣 此衣裳先も親く以て  
よ御事と云く見出とへ

何が非新田非ホ 名亦子成へ一と今京  
子非也一ゆりい儀可

梅人 うきいめや梅の二句揃也此人備  
人の字よりハ勿編字去なり

梅 只一連梅山さくさくなり一取葉よ一又いさく  
をそとく山梅と云ふなり

*(Faint bleed-through text from the reverse side)*

とまは是新式乃細まり櫛二お茶よ一り一夏  
冬乃乃ろり一り一長一さく二乃内より一  
二巾あり一巾一付りありあり一す花子櫛を  
つ巾又櫛り一巾を付りよもぬけ一儀支はり是  
あり寸遠端廻りあり一

櫛戸 ぬり櫛とい櫛と右雨とい櫛なりさく  
らりやとり乃宿のりなり

さく一田 櫛なり太山櫛をりよとり

櫛乃田 よけいの字は書と一門をひらか  
と付りりりる櫛りとり發乃

咲 といお字田よりあり

藤乃庵 櫛なりあり

何、枕 櫛なりあり

藤乃草ぬき なと何も用なり

さく一志の よる而と櫛なりとすと

何、まき一志乃 三なり一草の類といなり

みう櫛 一竹小ハ三白櫛といり又あり  
何ハ 一五白櫛とあり志の目ありといなり  
まき 一いり一西終字れ子治定と一なり  
さく 一開小ハみう櫛やと云親先不用之や  
山伏 のまき一け藤の字と用なり  
何、め 草なり何なり  
板 一各条  
又 一各条  
あり 人なりあり



猿

きく一ちりら一

罽

きく一名ふし一より

山

病々川の蛇や  
いも山の心より小乃字より付句計  
婦人

何ぞ人の少縁

まとりより猿まあり

さうゆや大げの宮

まと枕詞よりまも  
あや地唯

何種石さうと秩何の粟

まとり何小  
字三句婦也

小宮麻

り小麻まのふし字付句計婦也宮麻  
小小乃字を婦く大目とりれはよ入

さ萩ぬれ

いぬおんまと付句計と  
婦より

寒

冬去秋よりいつれよりあましありよ  
ゆりまとあり

空

小空ゆりうら西まあり他日冬小いま  
冬のさしきより秋乃さゆうらまのま

さしき

りり力小しきさゆりあまあり  
き長宋何も二句婦人

何ゆれ

冬より一他季より一山と二より

日乃さ

門をす垣乃さほま何と音  
三鏡あり二句不婦よりより毎

里

まもりふ白り松弄あまの標と何れ  
あま子炭ゆまのれ不婦

里乃海志

北居は北人偏名おより他垣飯  
まとあまん根ゆ神人偏よりさ

酒

まはて露とさ心弁葉まひをまき  
まよとい何よりあまんくれまきい

ゆり敷止略

二より

さうらふ支乃光

さうらふ支乃光 さうらふ支乃光 十日二句  
あはれ武乃月をりしきりまもあり秋乃季や  
あはれ月乃二句さうらふ一きり

五月ぬ

五月ぬ 五月ぬ 一梅乃ぬ一むめ乃あめあなま  
あはれさうらふのほ子神々

五月

五月 五月 五月明乃白梅月乃字りしむめ乃ぬ  
ま

さし

さし さし 五月明乃白梅月乃字りしむめ乃ぬ  
ま

目乃さし

目乃さし 目乃さし 五月明乃白梅月乃字りしむめ乃ぬ  
ま

つあ

つあ つあ 五月明乃白梅月乃字りしむめ乃ぬ  
ま

あはれあはれあはれ あはれあはれあはれ 五月明乃白梅月乃字りしむめ乃ぬ  
ま

あはれ

あはれ あはれ 五月明乃白梅月乃字りしむめ乃ぬ  
ま

あはれ

あはれ あはれ 五月明乃白梅月乃字りしむめ乃ぬ  
ま

あはれ

あはれ あはれ 五月明乃白梅月乃字りしむめ乃ぬ  
ま

あはれ

あはれ あはれ 五月明乃白梅月乃字りしむめ乃ぬ  
ま

あはれ

あはれ あはれ 五月明乃白梅月乃字りしむめ乃ぬ  
ま

あはれ

あはれ あはれ 五月明乃白梅月乃字りしむめ乃ぬ  
ま

あはれ

あはれ あはれ 五月明乃白梅月乃字りしむめ乃ぬ  
ま

あはれ

あはれ あはれ 五月明乃白梅月乃字りしむめ乃ぬ  
ま

ま

大君

此人備より君なりと云ても人備よりあり

大君と

大乃君よりありのりなり折也約人を  
の敷ありとありのりなり白何と唯

昨日の種

余乃種よりなりと云てはたし  
種よりありありと云

きぬ

一なり一白や昨日今とありと云

岩

一名石より一なりと云の岩のりや枝岩  
二乃外や但水きなりと云枝岩なりと云  
なりんハ二の外なり又ありと云なりと云  
なりと云なり枝岩のりなり

本と本

とよと替りなり一は種也少なりと云  
白きや池准

本と本

又ありなりと云種也あり

本

よ本の字二白種岐嶺とくゆなり種  
中抄ありと云

本

りり約二白種よりたきりりなりと云二  
白種あり

種

りり本乃字日二白種なり一人備あり

儿帳

よ本同二乃二白種但本乃字二白  
種ありとあり

菊乃花

種をさふなりと云種あり和名乃  
あり種あり

菊

香気人く二ありと云種ありと云  
一なり

きく乃例

水色あり

霧乃海 すゝの海 霧乃海の海乃と云ふ

霧の籠 霧の籠 籠に霧を籠めたる也

霧乃 霧乃 霧乃と云ふ

霧 霧 霧と云ふ

霧乃青 霧乃青 霧乃青と云ふ

砧 砧 砧と云ふ

三あ 三あ 三あと云ふ

礎 礎 礎と云ふ

きぬ きぬ きぬと云ふ

衣 衣 衣と云ふ

きり きり きりと云ふ

きり きり きりと云ふ

きり きり きりと云ふ

遠き 遠き 遠きと云ふ

人 人 人と云ふ

ま ま まと云ふ

すゝの海

霧乃

霧

霧乃青

砧

三あ

礎

きぬ

衣

きり

きり

きり

遠き

人

ま

ま

夕のり来

いんふりりまのり—二百  
る舞り

ゆ

出たさ

と六切さりきてのたさたるう  
り尺ゆりとりり

ゆふさ

勿海祇禊りりる造り

夕綿付馬

北祇禊禊るりり河乃関水  
りりるあり

夕月

只一とあわさるる乃月を又抄と  
ふくあるや夕乃字入てハキ—や

夕月

北祇禊夕附白乃日乃り  
これハ錦けくひるるのあり—の

夕月

申すけ

早のさるると天象より白蟻のり  
ひり—の夏の季とる

夕乃字

抄一つり申へと二のり  
夕乃字より申へ—のあり

夕

子妻秋の言歳乃言表乃言ホいつる—  
蟻のりりりりり

夕山

北名申すけのり名あり  
しとるり申すけ山乃夕のり

申へ

りりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりり

夕

とつてきりりりりりりりりりり  
ゆりりりりりりりりりりりり

夕

と云りりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりり

夕

りりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりり

夕闇

夕乃字のつらなり夕乃字よめ白をなり  
おもや書れ字よ二白煙余の時か不煙く

申す乃宿

桂物や二乃夕乃字よめ白  
きなり夕乃の字れ外なり言

夕立

夕よめ白煙書れ字立乃字よ二  
夕立一乃つらなり也皆一なるや

白煙なり

夕立

小申すを付て打あつて電雷不乃終る  
これ新式乃現なり

夕立乃白

なるとりひてとぬ二乃外也ぬり  
め白煙日而若山あめはほく

申す乃電

夕立不乃を降ゆりハ二白の  
夕立不乃を降ゆりハ二白の

煙り夕乃字立の字ハ小或小可煙く言れ字あて

夕時ふもみめ白つら煙夕立乃なり一はや夕乃  
凡そこのあつて

雷

雷也け外書乃雷一四四乃雷ハ各あ乃る也  
雷はある書雷乃雷而替て用く水雷の

此本式加書雷乃雷ハと新式乃現也  
以給地季在  
イ一雷なり申すハ一乃雷ハ書ハ由り初雷なりといふ  
夏なり水雷の雷ハ冬書乃外なるは准雷也

ナ一いしり乃書系とより申すハ  
雷ハ乃雷為地季ハ又同ハ而を替て  
と云心なりれは申すハ中在乃再  
只要とらつていり  
雷とらつて申すハ  
一乃雷ハ破邪顯正乃  
月乃雷たの雷乃類なり

雷

う雷と付く、又雷定燭也雷火乃雷水  
雷子同お乃候なり

ゆり

うりこりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

雷

よあし候付のり今ハ燭なり

ゆり

うりこりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

雷乃

燭ゆりあし路ゆりなり

雷

とよりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

雷

六乃候なりゆりゆりゆりゆりゆり

弓小矢

新或子打候と燭ゆり入る候なり  
う云う張月年の矢ホ此候

他可替抄うり西鈴弓子矢二句燭なり  
可替なり弓張月と云う又年の矢と矢と  
乃る不替抄本の弓矢と候なり  
かきと云候不謂矢候なり  
と云候又云候なり  
ゆり 此候なり

身

七句きや入る候なり  
身ハ元より候なり  
身ハ元より候なり

身

とつと云候なり  
身ハ元より候なり

唯一身  
身ハ元より候なり  
身ハ元より候なり

夢

といふ句小都(け)と付て月也と付る西

夢

けめといひてと代不付く文よそは

夢乃世の

新也分るるさしりなきあひ

ゆめく

といふとん夢り二句ゆめり東

ゆ

二句あり道乃ゆめとあや電鳥さあゆめ

ゆめ乃お連るるさしりなきあひ

ゆ

ゆめり二句ゆめや文字替

越くともとゆくと

あり一語よ二つりま

ゆめと二句ゆめはくは歎と書入るるかみふ可換

乃ゆめり大なるい活完乃

め

名神

日音鳴雷神由河上神也あのみ

名神

といひ伊勢と天て神也

名神

といひ伊勢と天て神也

名神

といひ伊勢と天て神也

名神

といひ伊勢と天て神也

名神

といひ伊勢と天て神也



目 と云ふは一なり目ハあるて世乃ハ記あると見  
ぬめとより一又一まゝにものあると心うり  
甲より一あるの准なる下しるう乃ハ一ははは  
る一は外木のめなる下し菊端ありありぬりなり  
ははは月欽

目乃さじ まじおん乃付くもさじ一は  
從可依乃神欽

色さめく か乃めくまのめくとよ細抄  
一ついふさじり

めりあり まははなりとら河乃心なり

み々々 幣乃り神乃字り不極

御稜 水邊なるり神祇なり拂柳なり何も  
付くもさじ

六月晦日入りありなり夏乃悪氣小蠅と成て  
人をかきとささり拵りなり大なる晦日よ定と  
よともみまつさ乃中ハ用なり子乃ささり賀茂  
河乃ささり清くまじ月とゆさなり人よ交  
るる(ま)とまあり晦日入りかきし河乃澄牙也  
麻乃ゆりてまももあり

帝勅 神乃字子不極但何  
二乃極といなり

帝 乃乃字二  
乃乃字

みつ 乃乃字不極といなり  
乃乃字

物 乃乃字不極といなり  
乃乃字

とら 乃乃字不極といなり  
乃乃字

さくさく

みきけさくさく 原藤代乃み坂

字あり

御 鶴と付る事あり

御階 禁中少輔にあり

御乃字 御とあり

御乃字 御とあり

宮 御とあり

宮 御とあり

みやけ

宮城 御とあり

御 御とあり

御 御とあり

御 御とあり

御 御とあり

御 御とあり

御 御とあり

急と申すと云ふ

都馬

あり急なり物り而と嬢へ冬と

三ヶ月

乃出のハ絶果分入ハ書分なり

三日月

う月と付るす不嬢と

峯

二より一も名前なるん一也思懐きと何も

冢

一ハ名前なり物嬢ハ字と二もまゝ

嬢といふ好去もあつてまゝと共而と嬢といふ後於

此未定なりすハ高所の外先遣なりたを

乃理 乃理ともも降降ありの包つと

又さあぬ山

みまのぬ浦なりぬ山なとい

溪

二より一ハ名なるなり

山

一ハ水二句嬢

水馬

ありといふ字ありとも用りあり一ハ行

み

うみまきなりて又こりりみ一ぬと

水

いつたといふおの嬢なり

の莖乃穢

小なり繪筆又何も付也但心月

石

あり一ハ外り法なりなりなり

みきり 一庭折と煙居前より二句あり

砌 一石雨を二句煙ゆへに庭はうらみありゆへ  
とりりきりひひろさ心あり園庭をのあ

庭のふらふらにほもみりみりみり  
をいひゆるゆり

道 一庭折を二句煙ゆへに庭はうらみありゆへ  
とりりきりひひろさ心あり園庭をのあ

石 一庭折を二句煙ゆへに庭はうらみありゆへ  
とりりきりひひろさ心あり園庭をのあ

方道 一庭折を二句煙ゆへに庭はうらみありゆへ  
とりりきりひひろさ心あり園庭をのあ

雲 一庭折を二句煙ゆへに庭はうらみありゆへ  
とりりきりひひろさ心あり園庭をのあ

簑笠 一庭折を二句煙ゆへに庭はうらみありゆへ  
とりりきりひひろさ心あり園庭をのあ

みとり子 一庭折を二句煙ゆへに庭はうらみありゆへ  
とりりきりひひろさ心あり園庭をのあ

方いぬりて 一庭折を二句煙ゆへに庭はうらみありゆへ  
とりりきりひひろさ心あり園庭をのあ

みいふりて 一庭折を二句煙ゆへに庭はうらみありゆへ  
とりりきりひひろさ心あり園庭をのあ

鷹麻をのまらり物と付り勢や海りことと  
さりーくもへていん備乃外いりあろく  
なり

尺取 一庭折を二句煙ゆへに庭はうらみありゆへ  
とりりきりひひろさ心あり園庭をのあ



塩乃海

いこがらぬ心と心わらう人あや

志乃山

なとひて山歌あり

志乃屋

志乃屋二の巻

清乃まじふ

かとりまじふ二の巻

清水

とあり西よき記あり

志賀

志賀の山越

志賀の山越

志のづゝ

志のづゝ

お三のりり懐紙のりりて志のみの山と

又まじふ

志乃

志乃

志摺

志摺

志草

志草

志乃車

志乃車

志乃

志乃

志乃

志乃葉

志乃葉

下り不審と



時 ぬ ー 時乃字付てもろけー寸まらむを  
時ぬぬおとーしゆれまらるーしゆらるや

まらけ ー て まよのやうなりまらるといふ心あ  
まらぬり小ハ折を嫌やまて  
とぬり折りーつてまらり

宗 ー 折乃字付てつまると折をろ嫌まは宗  
折の志はくおとも階也りあしん

志乃 卓乃類まらりりーより嫌やうともまはと  
竹小ハあふとより

し ね ー り折ハ二句嫌まらりゆあ時分  
小ハ不嫌目乃字りーと二  
白ゆ付へーし書

か ぬ 志く ー きよのーしとよ字百韻ーし  
一キんかト ー きまよのーしと二句嫌  
まらりー

あ ぬ 記 ー まらりー

知 ー りまらるまらるまらるまらるまらる  
二句嫌まらりし乃志は ー まらるまらる  
の志は ー り乃白氏文藻り 臂上守宮白  
消とまけし細まらりまらり

志乃 ー りまらるまらるまらるまらるまらる  
まらるまらるまらるまらるまらる  
まらるまらるまらるまらるまらる

物乃志は ー まらるまらるまらるまらるまらる  
まらるまらるまらるまらるまらる  
まらるまらるまらるまらるまらる

し ぬ ぬ ー りまらるまらるまらるまらるまらる  
まらるまらるまらるまらるまらる  
まらるまらるまらるまらるまらる

志 ぬ ぬ ー りまらるまらるまらるまらるまらる  
まらるまらるまらるまらるまらる  
まらるまらるまらるまらるまらる

志 ぬ ぬ ー りまらるまらるまらるまらるまらる  
まらるまらるまらるまらるまらる  
まらるまらるまらるまらるまらる



と多々あり一月きり一と等のひきまりあり

と多々ありとひきまり  
ひふーと  
山遠ーと  
ひふーと二白嫌ありひふーとひ

志と多々あり  
又ーと多々あり  
又ーと多々あり  
又ーと多々あり  
又ーと多々あり  
又ーと多々あり  
又ーと多々あり

と多々あり  
と多々あり  
と多々あり  
と多々あり  
と多々あり  
と多々あり  
と多々あり

と多々あり  
と多々あり  
と多々あり  
と多々あり  
と多々あり  
と多々あり  
と多々あり

人倫と二白嫌あり

十八乃切字  
二白嫌あり外一字これ皆  
四字ハ二白嫌あり

時分  
と時分二白隔あり  
と時分二白隔あり  
と時分二白隔あり  
と時分二白隔あり  
と時分二白隔あり  
と時分二白隔あり  
と時分二白隔あり

目下巻より

点

繪小く草本  
此種也  
此種也  
此種也  
此種也  
此種也  
此種也

と多々あり  
と多々あり  
と多々あり  
と多々あり  
と多々あり  
と多々あり  
と多々あり

ひ

ひもろ素  
此種也  
此種也  
此種也  
此種也  
此種也  
此種也

君と臣

わが乃とくかくゆふ人とのみ字り  
二の嬌へ

地国

あれも人とのみ字り二の嬌より人  
倫りあり奇

非

さか非きよひめるといつれあても折と人  
ていめ二あり

日子昼

不嬌へ付ても折へかす

日小

朝ほくひ夕附白ると二の嬌や釣附  
日ると月と二の嬌へ

日子

月以乃月打細と嬌へ一年月長月と  
日るとつらつら細ふは朝月以とさまり又

月朝月乃多きとハリとより日り三の嬌也月  
り日ると月又同あ

日以乃日の朝仕事

二の嬌へ日とさ  
日とりの日白敷

亦其外不可勝計

日以乃日

いんかを二の嬌へ

日

昨日余いくつなと何と付てと二の嬌へ  
かす一日二日なとも同あ

日

わが乃とくれお百韻り一や日子  
も吹おて二の嬌とりの嬌不細付

日

さか非きよひめるといつれあても折と人  
ていめ二あり

日

あれも人とのみ字り二の嬌より人  
倫りあり奇

日

朝ほくひ夕附白ると二の嬌や釣附  
日ると月と二の嬌へ

日

月以乃月打細と嬌へ一年月長月と  
日るとつらつら細ふは朝月以とさまり又

日

月朝月乃多きとハリとより日り三の嬌也月  
り日ると月又同あ

日

昨日余いくつなと何と付てと二の嬌へ  
かす一日二日なとも同あ

あつて二種も付くもろく  
ひりり  
とつりしては日乃まきなり  
あつて何と

久堅  
天像より二句嬌なり  
久乃字よりも可れ字の  
あつて中々天

火  
火よりかりとさうり  
ひかりとさうり  
火よりかりとさうり  
あつて何と

火  
火よりかりとさうり  
あつて何と

火  
火よりかりとさうり  
あつて何と

火  
火よりかりとさうり  
あつて何と

火  
火よりかりとさうり  
あつて何と

火乃うけ  
たり乃あり入  
あつて何と

松原  
あつて何と

一葉  
柳より相柳付りなり  
あつて何と

一葉乃船  
あつて何と

一夏  
あつて何と

一村  
あつて何と

一といふ字  
あつて何と

あつて何と

あつて何と

あつて何と

あつて何と

あつて何と

あつて何と

ひたり 只一巻子一月ねおとよへ人倫やね  
ひたりるといひ人倫ありあはれ

ひとも ひとみ 等もあはれ  
ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ

ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ  
二句きらあきり

ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ  
衣將多なり束ふなり下ひもといひても

ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ  
田あきり

ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ  
衣裁也いせあるおとよ

ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ  
軒回るや燻や涙いさへ君あは

ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ  
二句なりいあきりもほへ

ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ  
車隠とく居余乃心よ

ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ  
あはれさや意趣あり一紙り居余乃あ

ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ  
アと云

ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ

ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ

ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ

ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ

ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ

ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ ひとみ

氷室

氷室 氷室 氷室 氷室 氷室 氷室  
氷室 氷室 氷室 氷室 氷室 氷室

氷室 氷室 氷室 氷室 氷室 氷室  
氷室 氷室 氷室 氷室 氷室 氷室

氷室 氷室 氷室 氷室 氷室 氷室  
氷室 氷室 氷室 氷室 氷室 氷室

氷室 氷室 氷室 氷室 氷室 氷室  
氷室 氷室 氷室 氷室 氷室 氷室

氷室 氷室 氷室 氷室 氷室 氷室  
氷室 氷室 氷室 氷室 氷室 氷室

氷室 氷室 氷室 氷室 氷室 氷室  
氷室 氷室 氷室 氷室 氷室 氷室

氷室 氷室 氷室 氷室 氷室 氷室  
氷室 氷室 氷室 氷室 氷室 氷室

地准

地准 地准 地准 地准 地准 地准  
地准 地准 地准 地准 地准 地准

地准 地准 地准 地准 地准 地准  
地准 地准 地准 地准 地准 地准

地准 地准 地准 地准 地准 地准  
地准 地准 地准 地准 地准 地准

地准 地准 地准 地准 地准 地准  
地准 地准 地准 地准 地准 地准

地准 地准 地准 地准 地准 地准  
地准 地准 地准 地准 地准 地准

ひやくか 言解りハ時かいつくといひりかく  
のよ記の心ね苦憂より

も

りゝあき さりー橋こさするわんあき  
まり従まきとふーとちりあきり

てもあき

りあき 地准く  
ま記てかゝ園又あつー

紅葉 すく一橋梅るとよ一葉りらり一り  
乃初よりお紫三片りおを替りりり

のさーのあ外るわて天行のさるあよ秋表  
書り用え替ハ是をおを替り

紅葉乃橋 のさり鶴乃橋よ二早乃あを  
おして紅葉とあもゆり

紅乃色をよせくいふとちりけ紙不可用古今集  
す天行紅葉とさるよまもせも七夕はあ乃  
魁をまのんよあ乃ちり紅葉のさーといふ  
まよあり和紙よりう書りけさハ紅葉  
とさるまもせもさるさるしりしり初よりと  
近東さるさるつちて後との紅葉のさるといふ  
お乃あ乃さるさるあり紅葉をさるよ舟り  
いふお又あ乃舟とさるさるおと木し植也よ  
二乃婦人しとさる地銀河乃事一切り植  
わり不嫌く

紅葉 り色二句婦人とも松の色香乃色  
とい不可嫌く地可依乃あり

お紫 とありさる乃およま乃葉一葉とさる  
ありへり

もみり よ山の色をとりおと嫌といり地  
山の色種のいろ草乃いろあよあを

燦々

**おまふ** このふに二の燦々あり このふに二の燦々あり このふに二の燦々あり

乃西りくすくす 乃西りくすくす 乃西りくすくす

**森** 此一名は子一 又云道と 又云道と

**寂と川** 子川 子川 子川

**り** 植 植 植

**り** 草 草 草

**百子鳥** 百子鳥 百子鳥 百子鳥

らの鳥のき らの鳥のき らの鳥のき

**賜乃堂** 植 植 植

**氏古** 氏古 氏古 氏古

**も乃** も乃 も乃 も乃

**と乃** と乃 と乃 と乃

**あ乃** あ乃 あ乃 あ乃

**お乃** お乃 お乃 お乃

**あ乃** あ乃 あ乃 あ乃

**お乃** お乃 お乃 お乃

のふらといふ御用一きくまりと云ふなり一向名  
別のまかりサも不備細の字と新式よりありハ見  
まをわきまのまかりあらは各々のまや不備と  
他こまわらわらと同一下知のこまをいふは  
不及可嫌く何とわり一各別の内をいふ不備と  
地准

物を なとと毎のま二りりとも地今ののま  
まじりま嫌なり

又字あまなり 一序よ二句まといりり不備  
た二句まよりし地今の

り あまりのゆめくまへり  
まのまかりのまかり

又字 りま子まかり

とよむと まといりとも一序よ二りり  
地准

も 歌小いとうと句一と二なり

せ

関 只一名一画一書抄とまじりまといり一画又  
書抄まのまかり一書抄まは是抄式の別也

関 只関一名一画一画回書光法とまじりまの  
まかり一画一画とまじり抄まといり

関 帳りのこゆりともいふ  
何れ居るま二句まらあり

関 りのおまのまといり  
まのまかり

関 子まの関と付く又文字ま  
地准

関 まのまかり  
まのまかり

関 まのまかり  
まのまかり

蟬 只一日晩と朽を嫌なり却りともくさるるが  
よもあうとへくわらとくさるるゆりとりり  
とよみ細とくさると云ことんさるるる二句嫌  
なり地味

す

住者乃社 名ありり水地よりうらつとよ  
ときてい名ありりいふあはれ  
まふ國乃名二句嫌や名は乃  
る本ありゆりま名ありい二句嫌  
ありあり海伊勢乃くさるといつわもあ

末乃松山

名ありや極めや末乃松とあり  
末の松と云てと山影あり

松 心乃松又まやし松乃意極めあり  
考地味

菅 水邊よ 菅笠 菅藪との類同あり  
あはれい 久みのほとあり

只一尾 只一尾 只一尾 只一尾 只一尾

すま 只一尾 只一尾 只一尾 只一尾 只一尾

草乃 草乃 草乃 草乃 草乃

只一尾 只一尾 只一尾 只一尾 只一尾

栖 只一尾 只一尾 只一尾 只一尾 只一尾

栖 只一尾 只一尾 只一尾 只一尾 只一尾

栖乃 栖乃 栖乃 栖乃 栖乃



居ふ二のりり居ふよ二のりゆかひけくし

居ふのりへていれめりきりあり

まぬ井 内居ふり打ふしを嫌り後乃字ふい  
めりきりあり

後 居ふりありいりあり打納し居ふりあり

まぬ 居ふりありいりあり打納し居ふりあり

鈴 居ふりありいりあり打納し居ふりあり

源 居ふりありいりあり打納し居ふりあり

源 居ふりありいりあり打納し居ふりあり

涼 居ふりありいりあり打納し居ふりあり

涼 居ふりありいりあり打納し居ふりあり

涼 居ふりありいりあり打納し居ふりあり

涼 居ふりありいりあり打納し居ふりあり

涼 居ふりありいりあり打納し居ふりあり

涼 居ふりありいりあり打納し居ふりあり

涼 居ふりありいりあり打納し居ふりあり

涼 居ふりありいりあり打納し居ふりあり

涼 居ふりありいりあり打納し居ふりあり

地所

をとす

それとおまれの二の字ありとく

例) よま改而の字ありこれ教年れ男ふ密と堪純  
の入りあつるといもいりちひくきうれさ  
のじりより今迄迄す

をとす

よゆより二の字ありの字あり

甲字ありとあつて心よりいふと

*Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side.*

